

北湖主要漁場におけるゴリ資源の現況把握調査結果（2021年）

大前信輔

1. 目的

ヨシノボリ類稚魚である“ゴリ（ウロリ）”は琵琶湖の重要な水産資源の一つである。ゴリ漁は7月20日に解禁となるため、その漁期直前の漁場での生息状況を評価することを目的とした。

2. 方法

2021年7月14日にゴリ主要漁場である彦根市薩摩地先と松原地先、近江八幡市沖島地先、大津市真野地先、および高島市大溝地先の水深約8mでビームトロール網（ビーム長3m、袋網目合1.4mm）による採集調査を行った。曳網速度は約1.5km/h、曳網時間は6分間とした。また、携帯型GPSにて曳網開始地点と終了地点を記録した。採集したサンプルは現場にて10%ホルマリンで固定し、試験場に持ち帰ってソーティングを行った。発育段階初期の体長が小さく種判別困難なハゼ類をゴリとして計数した。

携帯型GPSの記録から曳網距離を計測し、ビーム長を乗じた曳網面積1㎡当たりのゴリの生息密度（尾/㎡）として評価した。

3. 結果

調査結果を図1に示す。生息密度は薩摩地先で2.2尾/㎡、沖島地先で1.5尾/㎡、真野

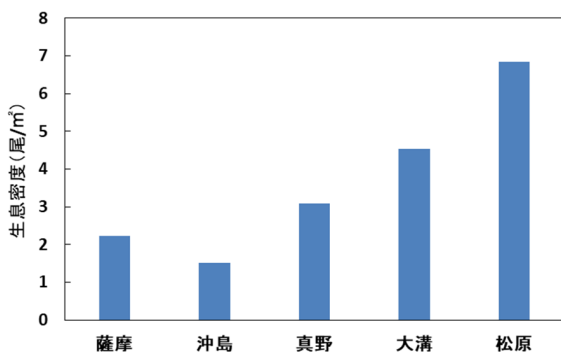


図1 2021年の地点別生息密度

地先で3.1尾/㎡、大溝地先で4.5尾/㎡、松原地先で6.9尾/㎡となり、松原地先が最も高かった。

過去との比較が可能な薩摩地先、沖島地先および松原地先について生息密度の経年変化を示す（図2）。全地点で前年を下回り2016年以降では最低値となった。漁業者からは解禁当初の不漁情報が寄せられており、漁況と一致する結果となった。

なお、漁況は8月まで不調が続いたが9月には改善しており、原因として構成する種類や親魚量等の変化が考えられた。

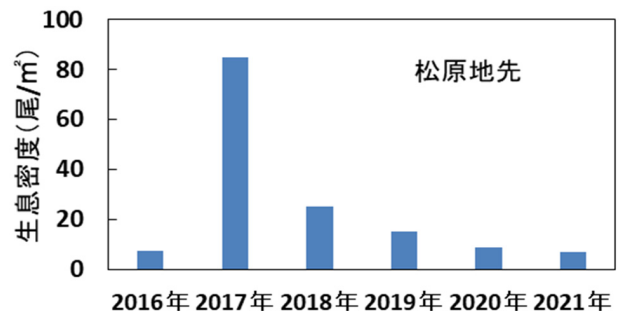
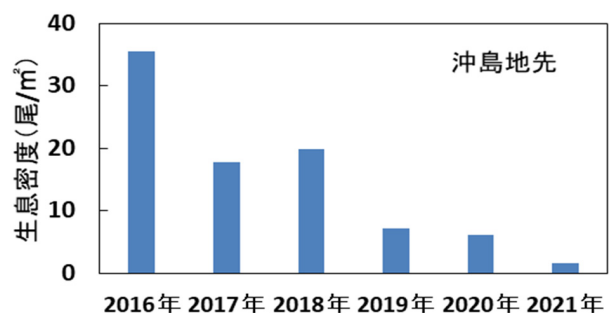
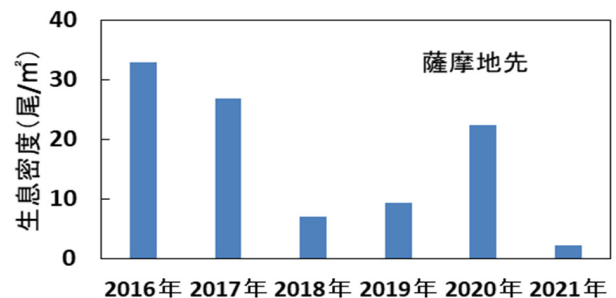


図2 地点別生息密度の経年変化